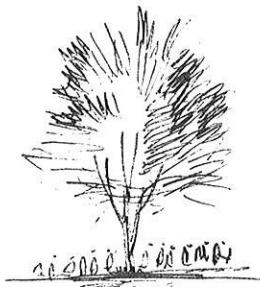


ひかりのこ

# 光の子



No. 76 1998. 1. 1.

## ● 希望に満たされて（ローマの信徒への手紙第15章13節）



(ek)

「みんな光の子」

え・中島英子

あけましておめでとうございます  
本年もよろしくお願ひいたします

社会福祉法人 光の子どもの家

「初景色」

墓山の松にしたがふ初景色

すれ違ふ人に火の香や恵方道

新しき暦の角の撥ねたがる

火の手はや田の面に上がる三日かな

物干に曜月泛けり女正月

木を囁すたび雪嶺のせり上がる

水餅の水に日の差す余生かな

黛 執  
〔春野〕主宰

発行／社会福祉法人 光の子どもの家  
編集／光の子 編集委員会

TEL/0480-72-3883 FAX/72-6649  
〒349-11 北埼玉郡大利根町砂原277

振替／00130-1-128022  
印刷／社会福祉法人 共愛会

## 2つの文化に生きる

10

日本キリスト教団東大宮教会  
バーガー京子

新しい年を迎えて、心はなぜか地球規模です。去年の暮れ、宇宙遊泳をした土井さんのニュースを見すぎたせいでしょうか。宇宙にぽつかり浮かんだ青い地球を見ながら、この地球という星はこれからどうなるのだろう、神様は私たち人間の住むこの星を見守つてくださっているのだろうか等々、ぼんやり空想にふけってしまいます。気分はまさしく土井さんの宇宙遊泳です。

「リリー」という電話の音で我に帰り、「もしもし」の受話器の向こう側は「〇〇塾の〇〇担当の者ですが、お宅の中二のお子さんの勉強状況はどうかと思いまして、今日はお電話しました。どうですか?お子さんは苦手な教科などございません

話は、競技とはおよそ似ても似つかぬ話である。がこれが競技の賞と結びついたのかどうかはさやかでない。オリンピック大会が開催される。

言うまでもなくオリンピックの発祥地はギリシャで、遠く紀元前八世紀にさかのほる。ローマの支配下になつて、紀元三九四年テオドシウス皇帝によって禁止された。理由はキリスト教徒となつた皇帝が、この競技は異教の神の祭典だといつたことであつた。

長い中断のあと、一八九六年に、フランスのクーベルタン男爵の提案で復興され、今日に及んでいる。アテネで開かれた近代オリンピック第一回大会では、優勝者には金ではなく銀メダルが与えられ、第二位勝者は、銅メダルを獲得した。(朝日新聞運動部・オリンピック百話)

古代ギリシャでアポロンの競技の際、優勝者に月桂樹の冠が与えられた。が一説には、はじめはブナの木の枝で作つた冠だともいわれる。ちなみに、常緑樹のカシの木の葉で編んだもので、味方の兵を救つた者に与えられた最高の褒賞であった。

(塩野七生・パクス・ロマーナ)  
ギリシャ神話の月桂樹を冠とする

## 賞を得る者

コリントの信徒への第一の手紙 9・24~27

あなたがは知らないのです。競技場で走る者は皆走るけれども、賞を受けるのは一人だけです。あなた方も賞を得るように走りなさい。競技をする人は皆、すべてに節制します。彼らは朽ちる冠を得るためにそうするのですが、わたしたちは、朽ちない冠を得るために節制するのです。だから、わたしたちとしては、やみくもに走ったりしないし、空を打つような拳闘もしません。むしろ、自分の体を打ちたたいて服従させます。それは他の人々に宣教しておきながら、自分が失格者になつてしまわなければなりません。

理事長 福島 勲

二月七日から長野で第十八回冬季オリンピック大会が開催される。

言うまでもなくオリンピックの発祥地はギリシャで、遠く紀元前八世紀にさかのほる。

ローマの支配下になつて、紀元三九四年テオドシウス皇帝によって禁止された。理由はキリスト教徒となつた皇帝が、この競技は異教の神の祭典だといつたことであつた。

長い中断のあと、一八九六年に、フランスのクーベルタン男爵の提案で復興され、今日に及んでいる。

アテネで開かれた近代オリンピック第一回大会では、優勝者には金ではなく銀メダルが与えられ、第二位勝者は、銅メダルを獲得した。(朝日新聞運動部・オリンピック百話)

古代ギリシャでアポロンの競技の際、優勝者に月桂樹の冠が与えられた。が一説には、はじめはブナの木の枝で作つた冠だともいわれる。ちなみに、常緑樹のカシの木の葉で編んだもので、味方の兵を救つた者に与えられた最高の褒賞であった。

(塩野七生・パクス・ロマーナ)  
ギリシャ神話の月桂樹を冠とする

話は、競技とはおよそ似ても似つかぬ話である。がこれが競技の賞と結びついたのかどうかはさやかでない。

オリンピックに参加することに意義があると言ふが、幼稚園の運動会じやあるまいし、やはり勝を競うところに妙味があり、興味も湧く。

そして優勝者は褒賞が金銀でも、ブナでも月桂樹のでも、それはともかく勝を制したことによりない喜びをもつのである。

使徒パウロもオリンピック・ゲームを知っていたのだろうか。信仰生活のあり方を競技にたとえている。

アテネで開かれた近代オリンピック第一回大会では、優勝者には金ではなく銀メダルが与えられ、第二位勝者は、銅メダルを獲得した。(朝日新聞運動部・オリンピック百話)

古代ギリシャでアポロンの競技の際、優勝者に月桂樹の冠が与えられた。が一説には、はじめはブナの木の枝で作つた冠だともいわれる。ちなみに、常緑樹のカシの木の葉で編んだもので、味方の兵を救つた者に与えられた最高の褒賞であった。

(塩野七生・パクス・ロマーナ)  
ギリシャ神話の月桂樹を冠とする

五歳、函館のロシヤの領事館の要請で来日した。

やがてハリスト教会の創立と宣教にたずさわり、当時カトリックに次いで二番目の多数の信徒を獲得した。

日本では純粹に宗教活動をして叙事飾りのない今まで神の許に召され

ことが望ましいといつてゐる。(中村建之介著・宣教師ニコライと明治沙汰があつた。

このときニコライは、自分には神から負わされた十字架がある。この一つの務めを果たして、懸けられた胸の十字架をとり外し、何一つ

飾りのない今まで神の許に召され

ことが望ましいといつてゐる。(中

日本では純粹に宗教活動をして叙事飾りのない今まで神の許に召され

ことが望ましいといつてゐる。(中



## 学者もどきのつぶやき ③

学者もどきのつぶやき ③  
い  
老  
の名前がフルネームでポンポンと出てきていたのを憶えている。小生はと言えば、教室に在籍している大学院生の名前を思い出せないことがままならずあるから、困ったものだ。

まずファーストネームを思い出して、そのあとでないとどうしても名字が出てこない男が一人いる（このことは、当然のことながら、教室員の誰にも言えない内緒である）。彼を呼ぶときには以上のやつかいな手

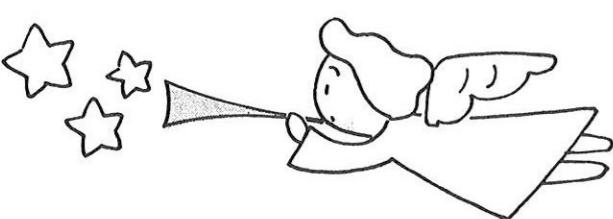
「やっぱりか」と思った。

やはりアルコールは本当に脳細胞を溶かすらしい。

最近もうひとつ困ったことは、気に懸かることがあると、その事が、おおげさに言えば、私をそこにくりつけ、何とも心穏やかならざることである。

大きな口をたたく割には気が小さいらしく、この傾向は昔から少しあつたのだが、最近とみにひどい。

例えば・・、小生の兄は田舎で開業医をしていて、たまに彼が出かけ



老化現象などと言うと理事長の福島先生に「〇年早いと叱られてしまふこと必定であるが（前にも「光の子」にこんなことを書いたことがあるような気もするが、それもどうだか忘れてしまった）、老化という問題は生理的な年齢とはあまり関係ない」とのことのようでも

順を踏まなければならないから、なんとも面倒である。

このような現象が私だけのものではないことを知る機会が最近あり、内心ホツとしている。

なければならぬときには、小生の所に臨床の講座から出向いて研究している大学院の諸君にお手伝い願うこともあることにについては前にも触れたが、彼は六十四歳の今まで休むことなく働いてきて最近少し疲れたのか、依頼の回数が増えてきた。

何も無いときはいいのだが、今回の依頼は折悪しく小生たちの一番大事な学会の真っ最中にあたってしまった。我が教室員は全員参加するわけで、教室からは誰もいけない。大学院生に出身教室に都合にいい人が誰かいなか探してもらう他、手だてがない。

それがなかなかに言い出せない。何とか他にいい方法はないか、おおげさに言えば（いや、今回はかなり長い期間であった）、悩むことになる。内科から来ている女性の大学院生に用向きを話し出すまでの間々とした思いは、我ながらあきれるばかりであった。

「何をそんなにクヨクヨするの。やらなければならない事は、やるしかない」こんなことを言い聞かせて自分を奮い立たせようとしているとき、いわゆる初老性鬱病症候群かなと思えてくる（たしか、このこともどこがで触れたような気がする）。でも、落ち込みながらも、結局はや

らなけれどもならない事をやつて来た  
のだから、病気ではあるまい。

ひかりのこ

定年で学校を辞めると同時に、私は一つの肩書きを失った。○○高等学校教諭というのはもち論だが、もう一つ別な方である。それは○○高等学校うどん・そば愛好会会長といふ名譽ある肩書きである。この長い戒名を見ると、いかにも偉そうなものだが、何の事はない。校内で毎日昼食にうどんやそばを取る七・八人の仲間たちが、その最年長であつた私を冷やかしてつけた肩書きなのである。したがつて会長には何の権威もないし責任もない。

ろう。よく食べたものである。  
それにしても、好きな人はむしょ  
うに好きなものである。むしろ中毒  
といつて良いくらいな人も、たまに  
はいる様である。

学校では、愛好会のメンバーが当  
番を決めて、一ヶ月交替で朝の注文  
などの世話やきをする。当番は名表  
の一覧を持つて、朝の職員の打ち合  
わせの前後に注文をとつてしまふ。  
遠くにいたつて大丈夫。目と目が合つ  
た時に、ちょっと手を上げて合図を  
すれば良い。出張などで昼食が不要  
の時は、両手でバツを示せばOKだ。  
毎日その人によつて食べる物の種類  
が決まつているから。又、メンバー  
以外の臨時の注文も、もち論歓迎で  
ある。

昼休みになると、うどん屋から岡  
持が届く。部屋に近づくと、もう誰  
かがつゆをガスにかけ、熱くしてい  
る。空腹に、あの香ばしいつゆのに  
おいが廊下まで拡散し、チヨークで  
汚れた手を洗うのもどかしい。

私は主としてそばを食べて、いたの  
だが、ドンブリにそばが入つてくる  
ものだから、その上にかき揚げ天ぷ  
らを乗せる。そこに、上から熱いつ

ゆをたっぷりとかけるのである。すると、少し冷えかかったそばと、熱いつゆとが醸し出す絶妙な温度がうまれるのである。

この頃になると、まるで野生の動物たちが餌場を目ざす様に、三三五五と、若き飢えてる人たちが集まつて来る。そして、少し食べ進むうちに、ドンブリの中では、あのかき揚げが崩れはじめ、次第に散らばつてくるのである。これが又、言い様もなくうまいのである。もう、こうなつたら他人の事など構つてはいられない。一気に夢中で搔き込んでしまつて、一滴のつゆも残さない。ストントンとドンブリをおろす時には、もう食べたー」という満足感に満たされ、或いは虚脱感に襲われて、大きなため息が出てしまう。それからやつと、雑談に入つていくのである。

或る時、そのうどん屋がテレビで放映された。うどん博士と言われる大学の先生が、その味を絶賛したのである。翌日私たちは、バラの花束を用意して、みんなで集まつて出前を待つていた。「お待ちどうさま！」と、いつものおばさんが岡持を持つて部屋に入つて来た。私たちは「日

本一の味、おめでとうございます。」と、みんなで拍手をし、花束をプレゼントした。おばさんが、意外な事態にびっくりして、目を丸くしたのは言うまでもない。私たちが毎日届けてもらいうどんやそばの味が高く評価される事は、お店にとつても私たちにとつても嬉しい事である。

学校という所は、一面に於いて多忙な“いくさ”の場である。そんな中で、おいしい手打ちうどんやそばを、連日食べる事ができたのは、非常にせい沢な事であつた。又、この様な小さな、ささやかなしあわせを、“いくさ”の中에서도味わえた事は、恵まれた事だとも思う。学校全体にただよう落ち着いた、和やかな人間関係。学校を離れてみて、つくづくと今、それを感じる。

それにしても、最近体調がどうもおかしい。運動不足と食べ過ぎか。しかし、どうやらこれは、長年続けてきたあのうどんやそばを、殆ど食べなくなつてしまつたからではないか、と、密かに思つてゐるのである。

- 1 -

うどん・そば

彫刻家  
中島 瞳雄



的な改正を志向したという。しかし、ある責任者の言葉を借りると、養護施設などの業界がそれに対応できる、あるいはしようとする機運や体制にないことと、官の意識がそれを受け入れるほどの成熟に至っていないなどの理由が重なり、結局関係省庁とのすり合わせの必要なものや財政的裏付けの必要な具体的で実質的な部分は、手つかずのままの部分改定に終わり、今後は駆伝方式で最終的な改正を目指すという言い方で落着した。

今回の児童福祉法の改定の大きなものは、養護施設の名称が児童養護施設と変更され、これを養護し、あわせてその自立を支援することを目的とする。と改定された。

新うきこ

菅原  
哲男

「戦後の浮浪期は『児童は時代の希望である』という理念を掲げて制定され、施行直後は街に溢れた浮浪児を狩り込み収容保護するという役割を担つて始められた児童福祉法が、五〇年ぶりに改定され、四月より新たに施行される。

これは、単行五(数年)にわたって一貫して続けられてきた「収容・保護」という社会政策的役割を終了させ、子どもの『自立支援』に取り組むという内容の変更なのである。

生命身体の保護の保障することが全  
てであつてよかつた。そして、可哀  
相な子どもの親や家族にしてみれば、  
当該の施設に、ありがたかつたり申  
し訳なかつたりしていたのである。  
しかし、これからは、自立が果た  
せないで施設に滞留している者の保  
護者が、何故自立が遅いのか、どの  
ような自立プログラムを持つている  
かなどと問うことができ、あるいは  
係争になることなども予想されるの  
である。ましてや時代のキーワード

われわれ現場のあり方にかかっている。  
そこでまず、われわれが第一に取り組まなければならないのは、馴れ合いでも上下関係でもない、正常な地域との人格関係の形成をより一層進めいくことである。

施設と地域を隔てていた収容保護という壁を取り除き、もっぱら子どもの自立と取り組む児童養護施設に、地域の子どもを持つ親たちが気軽に立ち寄れるような場所になることで、子育ての役に立つことがまず地域化・

たつた自立を支援する、と言う單文が法文の目的に加えられたことで、これまでとは関わる者全てに位相そのものを変更させる内容を含んでいるのである。

たとえば、収容保護では、とりあえず可哀相な子どもたちへ衣食住や

施設の小規模化と地域へ分散しての居住を目指してきたのである。

これまで私たちが目指し努力を注いできたあり方が、ようやく法文では明らかに採用されたと考えている。

この法文を画餅に終わらせるか実体化させる力になるのかが今後のわ

何よりも、可哀相な子どもたちと  
いう概念から脱出しなければならな  
い。暮らしを楽しみつつ課題と取り  
組む自立の過程にある一人の子ども  
としてこの地域にあるのだ。

我々は児童養護施設の新たな第一  
歩を確実に踏み出そうとしている。

あけましておめでとうございます。  
新しい年を迎え、さらに励んでい  
きたいと思います。皆さまにとりま  
しても、一九九八年が素晴らしい一  
年でありますように・・・。

「いってきまーす」。まだ少し薄暗く、やつと朝陽がさしはじめた通学路を、小学生の登校班が行きます。園庭には長さ二センチほどになる霜柱が立つて、まだ準備が出来ていない子を持つ小学生と園児が、ザクザクと踏みならす音が聞こえるほどです。

さすが大利根で育った子どもたち、こんな寒さは何のその、今日も元気にして学校へ行きます。

詩美ちゃんは十一月まで半袖で過ごし、十二月に入つても長袖一枚、ジャンパーともコートとも縁のない毎日を送り、とりわけ元気な子です。

先日学校のマラソン大会がありました。毎日毎日学校で練習をしていました。毎日を送り、とりわけ元気な子です。

「どうして？」と答えると、「二十日ほど前に、「私、何位になるとしよう？」と聞いてきました。「うーん、十位、九位、八位、七位、六位、五位、四位、三位、二位、一位」と答えると、二

コニコしながら、「えー、もつといいよ」と詩美ちゃん。「えー、もつといいの? ジヤあ一位」というと「一位は無理」。練習でいつも六位くらいなのだそうです。「ジヤあ四位以上だつたら、豪華賞品をあげましょう」と約束をしました。

マラソン大会が近づくと詩美ちゃんは、「四位も無理だよ・・」と時々つぶやいています。「別に四位になれなくたつてがんばればいいんだよ」。前日、「私、練習ではいつも五位なんだよ。六位まで賞状がもらえるんだって」と報告してくれました。

「すごいね。じゃあ本番は、三位くらいかな」というと、「えー、三位にはなれないよ」といいながらもニコニコ。その日は早めに布団に入りました。

マラソン大会当日、学校へ行くと、半袖半ズボンの体操服の詩美を見つけました。おおきく手をふると、ともだちとよりそいながらにこにこと手をふりかえしてくれます。「ガンバレ」と、口をパクパクさせガツツボーラーを送りました。

生が終わり、いよいよ四年生の番です。

A black and white line drawing of a young girl with dark hair styled in two pigtails, each adorned with a large bow. She is wearing a light-colored, short-sleeved top with a small pattern and dark shorts. Her gaze is directed upwards towards a hot air balloon. The balloon features a striped pattern on its basket and is surrounded by a few simple clouds.

100

光の子たちと  
⑤

藤本 曜子

コニコしながら、「え、もつとい

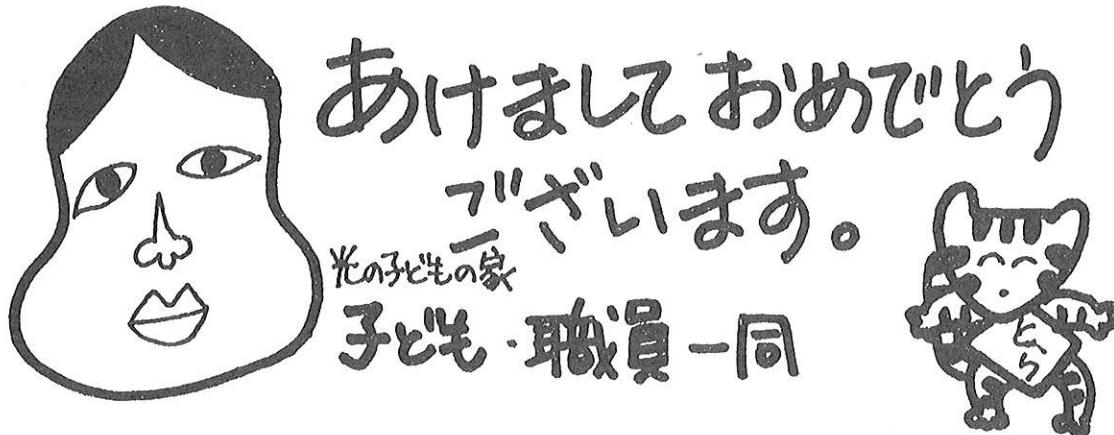
生が終わり、いよいよ四年生の番で

たちもみんながんばりました。

「コニコしながら、「えー、もつといよ」と詩美ちゃん。「えー、もつといいの? ジヤあ一位」というと「二位は黙り」。東雪でいつも六立く

生が終わり、いよいよ四年生の番です。

たちもみんながんばりました。  
よく頑張ったね。六位入賞おめで  
とう」と言つて、学校から帰つてき  
た時美ちゃんを迎えると、少々照れ



## 日誌抄 = 暮らしの風景 =

1997年 10月1日 ▶ 11月30日

10月

5日 每年ご支援の北川辺町の増田博氏よりおいしいお米をたくさんいただきました。ありがとうございました。

8日 每年恒例になった光の子どもの家後援会と赤十字奉仕団のみなさんが 共同で構内の草取りご奉仕 感謝

12日 吉川町山崎満氏より衣類などを

14日 町内旗井関みち子氏よりお菓子を

24日 地域での理解者で私たちをお支え下さっている町内北平野の稻葉公子氏よりお菓子を

27日 お父様の時代 開設当初からそのご遺志を継いで下さる江森ヘヤーサロン 子どもたちの散髪ご奉仕

○ 町内で熱いご支援の篠塚敏雄氏よりお米を 感謝

11月

2日 福島県郡山市で地域精神医療に心を傾け 光の子どもの家の子どもたちへの関わりなどにスーパー・ヴァイズをして下さる菅野クリニックの菅野博士がご来訪 阪神大震災の例にもある精神的打撃への心のケアは養護施設にも日常的に必要だと熱心に 感謝

3日 第51回理事会 中間事業報告 挿正予算案の審議

○ 第十三回感謝の集い 前日まで心配された天候も美しく晴れわたり 少々出足は鈍ったが熱心な地域のご支援者や遠く静岡 神奈川 東栃木など関東一円から熱い祈りを携えたキリスト教会関係者など100

名ほどが集い 福島駒牧師のメッセージを受けて感謝礼拝を捧げ 園庭で軽食の祝会を 先代より続いている毎月子どもたちの整髪のご奉仕をして下さっている江森ヘヤーサロン江森宣夫様にご支援の皆様を代表して感謝状をお受けいただいて始めた 島田徳三町長や町会議員などもご参集下さり盛会となったアトラクションには地元のマリンパトリオ『RED BEARRIES』の軽快な音の楽しみが心をうち 県立不動岡高等学校音楽部約50名による混声合唱が岡留先生の指揮によって晴れ渡った秋空に吸い込まれるように歌い上げられた

6日 小林熊治氏より衣類をたくさん ありがとうございます

16日 幼児さんたちのためのボランタリーな働きをしている 町内旗井ゆうゆうクラブよりたくさんの日用品を

19日 埼玉県指導監査 概ね評価をいただいたが、O-157関連で細かいご指摘を 又 子どもたちが職員をファーストネームで呼んでいることにはじめがないという少々肯首しかねるご指摘も

23日 岩槻教会より収穫感謝のご挨拶と捧ものをいただく

24日 鶴宮町の戸石幸夫氏より日用品を 感謝

25日 長いご支援の小谷野亨氏より家具などを 感謝

こんな毎日がみなさんにお支えをお受けして紡がれ、そんな日常で子どもたちは成長していきます 今年も (くら)

## // / / / ————— 反 射 光 ————— // / / /

☆いつもの風景なのになぜか新しさを感じさせる初景色の中で、子どもたちが廻揚げに興じます☆明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願い致します☆人と人との関わりがつくられる時には一気に盛り上がり天井を突き破る程なのに、壊れる時には奈落へ真っ逆様です☆そうして父と母との間が不通になり家族が離散します☆そんなこの時代のどこにでもある風景から生み出される子どもたちに何の責任があるのでしょうか☆それは大人たちのものであります☆それが大人たちのものであります☆そのための子どもの施設」運営に心を用いていきます☆子どもたちの年齢構成が更に思春期と幼児期に裂けるようになります☆誤つこと山の如きの私たちに、更なるご支援を! 今

(哲)